

有害物質を大幅削減

丹波市のロハス 中国製ごみ処理装置の実証実験始める

産業廃棄物処理業、(株)スリーエス(本社・福知山市牧、丸岡陽太社長)の子会社で廃棄物のリサイクル事業を手掛けるロハス(株)(同・丹波市市島町梶原、同社長)は11月17日、有機物低温熱分解処理装置「RETEC(リーテック)」の実証実験を始めた。プラスチックなどのごみを低温で炭化処理し、ダイオキシンなど有害物質の排出量を大幅に削減できる中国製の装置。日本の環境基準に合わせ改良を加え、国内での販売につなげる。

【岡田圭司】

国内販売に向け改良へ

リーテックは中国に本社を置く緑華環境有限公司(呉書文社長)の製品。人口が14億人以上の中国では大量のごみの処理が問題となっており、ごみ処理施設に持ち込まなくても、工場などごみが発生する場所で処理できる装置として2年前に開発した。

プラスチックや生ごみ、廃タイヤ、紙類などの有機物を、300度以下に保った炉内で炭化処理する。焼却炉で

はなためダイオキシンや窒素酸化物など大気汚染につながる有害物質の発生を大幅に抑制できるのが特徴という。

置普及振興機構(JAROA) 東京都品川区、小泉賢司理事長

が国内1号機を輸入し、JAROAに加盟するロハスが舞鶴工業高等学校(舞鶴市白屋)と連携して実証実験を行う。装置を日

上陸記念で式典

17日には関係者らが参加してリーテックの日本上陸を記念した式典を開催。小泉理事長

は「(装置を)日本の厳しい基準に適合させることで、中国での普及にもつながる。地球環境を良くするという使命感を持ち、今後さらに研鑽していきたい」と述べたほか、岡社長は「日本での普及は簡単ではないが、きっと道は開けると信じて頑張りたい」とあいさつした。



ロハスが実証実験を始めたリーテック(丹波市市島町梶原)